

白山社会学会ニュースレター

発行/白山社会学会

事務局/〒112-0001 東京都文京区白山5-28-20

東洋大学社会学部気付

凡例：(洋)は(東洋大学)の略

白山社会学会大会・総会開催予定

第15回大会・総会は1997年12月13日(土)に白山、
雨水会館にて開催されます。

開場 12:00 ティータイム 12:30-13:30
シンポジウム 13:30-17:00

「社会学実践探検—課題・選定・方法—」

コーディネーター 細井洋子

司会 日高安比古

話題提供者 張江洋直

角田幹夫

井出裕久

討論者 紀葉子

宇都宮京子

島崎哲彦

総会 17:30-18:00 懇親会 18:30

白山社会学会大会 第14回大会開催

1996年の白山社会学会大会は12月7日(土)東洋大学白山校舎、雨水会館にて開かれた。まず、午前10時から酒井出氏の司会で自由報告が進行され、「生活施設居住者自治会の人権擁護機能」島田肇氏(洋/大学院福祉社会学システム専攻)、「犯罪とエスニシティをめぐる日英比較」小宮信夫氏(洋/大学院社会学専攻後期)、「ポスト福祉国家の福祉供給体制」児島亜紀子氏(洋/大学院社会学専攻後期)の順で各氏が報告を行った。次いで昼食をはさんで、午後1時から市川藤雄氏を議長に選出し、総会議事が行われた。

引き続き、駒井洋氏(筑波大学)の司会により、「世代と多文化社会」というテーマのもと、シンポジウムが行われた。3人のシンポジストから以下の報告があった。宮下裕一氏(老人ホームちば美香苑)「英国におけるエスニック・マイノリティの現状から日本が学ぶもの」、根橋正一氏(流通経済大)「多文化主義の行方—中国の視点から」、松本誠一氏(洋)「世

代と多文化社会—カナダ・ケベック・モントリオール」。質疑応答の上、討論を行った。

大会終了後、白山上の「かに谷」において懇親会が和やかに開かれた。

総会報告

〔1〕活動経過報告(平成7年12月~平成8年11月)

平成7年(1996)

12月16日(土)第13回白山社会学会大会開催

平成8年(1997)

3月12日(火)第2回関東地区社会学・社会福祉学修士論文発表会

第1セッション(社会福祉学)司会、森田明美(洋)

1. 加藤悦雄(洋)「『福祉コミュニティ』形成の『方法論』に関する考察」

2. 早坂聡久(淑徳大学)「高齢者の住生活をめぐる福祉問題とサービスに関する—考察—東京都荒川区における在宅福祉サービスとの関連を通して」

3. 浜島淑恵(日本女子大)「老人福祉サービスの質の保障に関する—考察—日本とイギリスの比較を通して」

4. 岡山里子(東京都立大)「障害者の介護保障と介助サービス—東京都における自立生活運動を中心として」

第2セッション(社会学)司会、宇都宮京子(洋)

1. 工藤義弘(明治学院大)「共同体に接近する社会理論と社会学の問題設定」

2. 加藤克彦(明治大)「社会的自我論から見た社会意識についての—考察—長野市の過疎地域における実証的研究」

3. 村尾祐美子(お茶の水女子大)「女性の職業参加による労働市場へのインパクト—社会階層論的解釈」

4. 築山裕子(中央大)「女性の就業継続に関する研究—ライフコース選択の視点から」

5. 白岩砂紀(中央大)「エスニック・ビジネスの生成に関する事例研究—広がるネットワーク企業家精神」

6. 中村享嗣(日本大)「浄土教の倫理と近江商人の精神—ウェーバー・テーゼとの関連で」

7. 梅津礼司(洋)「成立期盛友会の思想形成過程—創唱者をめぐる人間関係を中心に」

4月22日(月) 運営委員会

- (1) 今年度活動計画について
- (2) 『白山社会学会会報』No.15の発行について
- (3) 本年度の統一テーマについて

6月17日(月) 運営委員会

- (1) 第一回フォーラム開催計画
- (2) 『白山社会学研究』No.5の刊行について
- (3) 『白山社会学会会報』No.15の発行について

7月13日(土) 第一回フォーラム開催(テーマ『地域社会と世代』) 司会、米林喜男(順天堂大学)

1. 「スポーツクラブは世代間交流に資するか」宇佐美隆憲(洋)
2. 「世代間交流と伝統的地域社会システム」対馬秀子(順天堂大学)

3. 「社会資源としての保育園—そのネットワークの実情」川副孝夫(市川市さかえ保育園)

コメンテーター、清水浩昭(日本大学)・大坪省三(洋)

9月21日(土) 運営委員会

- (1) 大会プログラムについて
- (2) 『白山社会学研究』No.5の編集発行について
- (3) 運営体制について

11月6日(水) 『白山社会学会会報』No.15発行

11月7日(木) 第14回白山社会学会大会プログラム発送

11月30日(土) 運営委員会

- (1) 大会開催について
- (2) 総会議題等

学会会員数(平成8年11月30日現在)

卒業生・海外在住158人(158人)各()内前年数

大学院生 13人(7人)

元・現教員その他 44人(40人)

合計206人(205人)

【2】会計報告(別紙参照)

【3】役員改選

会長が高橋統一先生から、竹内郁郎先生に交代したほか、前年より大きな改編がされました。新役員の方々には「委嘱状」というのはありませんが、よろしくお願ひ申し上げます。

顧問 岩井弘融、高橋統一、山下要毅男

会長 竹内郁郎

副会長 酒井俊二、山手茂

運営委員 穴田義孝、天野マキ、池田正敏、泉田渡、炭木竹二、大島尚、大坪省三、大橋綾子、奥田道大、佐藤豊道、清水浩昭、鈴木勁介、高橋直之、田中豊治、坪井龍、中山伸樹、西山茂、芳賀正明、藤木三千人、細井洋子、宮良高弘、米林喜男、渡辺博史

企画 天野マキ、西山茂、細井洋子、米林喜男

会計 旭洋一郎、川池智子

監事 小倉重男(1997年8月逝去)、園田恭

編集委員長 大坪省三

編集委員 大島尚、酒井俊二、清水浩昭、渡辺博史

査読委員 池田正敏、奥田道大、佐藤豊道、鈴木勁介、高橋統一、藤木三千人、宮良高弘、山下要毅男、山手茂、米林喜男

運営事務局員 松本誠一(事務局長)、旭洋一郎(会計・会員)、市川藤雄(広報)、伊藤和子、川池智子(会計)、児島重紀子、酒井出、佐久間美香、城正子、森田明美(総務)、山下興一郎、山本正司

1997年修士論文発表会開催

1997年3月11日(火)、第3回関東社会学・社会福祉学修士論文発表会が東洋大学白山校舎、甫水会館4階会議室で開催された。

午前中、第1セッション(社会福祉学)。司会、森田明美氏(洋)。

1. 倉野ともみ氏(洋)「ソーシャルワーク論におけるアセスメント概念と診断概念」
2. 朝倉美江(洋)「地域福祉における参加と小地域—小地域福祉活動の可能性」
3. 菅原志保(東京都立大学)「災害ボランティアに関する一考察」
4. 川崎愛(日本女子大学)「NGOは「国」を越えられるか—「アジアの女たちの会」の事例研究」

第1セッション総評、山手茂氏(洋)
昼食会の後、第2セッション(社会学)。司会、紀葉子氏(洋)。

1. 杉浦郁子氏(中央大学)「カミングアウトに関する語りの分析—相互行為論的分析」
 2. 森苑子氏(お茶の水女子大学)「女性向けポルノグラフィーを通じたフェミニズムの再検討」
 3. 鈴木崇之氏(明治学院大学)「日米家族社会学における『ホスト実証主義』の動向—家族感情の社会学にむけて」
 4. 前野貞次氏(駒沢大学)「現代青少年の社会関係と生活意識」
 5. 岡村志以氏(洋)「日本語ワープロの特性についての一考察」
 6. 田呂禾氏(日本大学)「韓国社会の中間層に関する研究—ソウル江南地域を中心に」
- 第2セッション総評、竹内郁郎氏(洋)

白山社会学フォーラム開催

「21世紀の世代間関係—少子化・高齢化の予測と対応」をテーマとする1997年度白山社会学会フォーラムが1997年7月5日(土)、白山校舎1408教室で開催され

た。

コーディネーター・司会者、山手茂氏（洋）

報告者：

1. 矢野聡氏（国際医療福祉大学。洋/非常勤講師）「世代間の所得再配分－年金制度を中心に」

2. 吉本孝司（充賜）氏（浦和短期大学。洋/非常勤講師）「世代間の相互ケア－保育・介護を中心に」

コメンテーター：

1. 米林喜男氏（順天堂大学。洋/非常勤講師）

2. 宇留野功一氏（社会福祉法人芳香会・老人保健施設・青嵐荘ケア・アシスタンス。洋/非常勤講師）

当日は学部・大学院学生の参加者の姿が目立った。

社会学博士学位取得者

1996年度の社会学博士学位取得者は次の方々です。

◆乙（論文博士）

社会学 山手茂「福祉社会形成とネットワーク－社会学・社会学論集2」

社会学 日比野正己「福祉のまちづくり研究－障害者・高齢者らの豊かで楽しく美しい生活環境の創造をめざして」

社会学 坂田期雄「高齢化社会と自治体の対応」

社会学 田中明「イギリスにおけるナーシングホームの役割と機能」

◆甲（課程博士）

社会学 奥間葉子「韓国漁村における<村落統合>の社会人類学的研究－日本の事例との比較から」

社会学 葛慧芬「社会変動と人間形成－中国の<文革世代>の生活史から」

社会学 稲沢公一「精神障害者セルフヘルプ・グループの基礎的研究－援助関係論の検討」

社会学 児島亜紀子「ポスト福祉国家の福祉供給体制－福祉多元主義アプローチの展開」

訃報

・本会会員、磯村英一先生（洋/名誉教授、洋/学術顧問、元学長）が4月5日（土）脳内出血のため亡くなる。享年94歳とご高齢ながら、前日まで会議に出席されるなど、元気に活躍されていたので、関係者が驚く急逝であった。3月21日には一番ヶ瀬康子先生の退職記念パーティに開会から閉会まで出席されて、スピーチでは一番ヶ瀬先生と同じ干支だが、ふたまわり上ということで、参会者の笑いを誘われ、「老人差別をする

な」というメッセージもあり、常に将来社会のあり方について警鐘を鳴らす、変わらない「磯村ぶし」でユニフォームのある機を飛ばされていた。

・本会監事、小倉重男先生が8月上旬に病没された。先生は長年、非常勤講師として本学の学生に教室で指導されるのを楽しみになさっていた。また、白山社会学会大会にも常連のように御出席下さり、近年は役員もお引き受け下さっていたが、癌のため急逝された。

お二人の先生に慎んで哀悼の意を捧げます。

退職教員

一番ヶ瀬康子先生（社会福祉学科教授）

1995年に着任され、専任教員として在職されたのは2年間という短い期間であったが、それ以前にも非常勤講師として長年、東洋大学学部・大学院の社会福祉学の教育充実にご助力下さった。退職後は長崎純心大学の教授に就任された。

新任教員

池谷のぞみ先生（応用社会学科図書館学専攻・講師）

専門分野は図書館情報学、知識社会学。知識の社会的配分・共有に関わる問題について現象学理論を踏まえつつ、調査・論文を仕上げられ、英国マンチェスター大学から今夏Ph. Dを授与された。

会員異動

旭洋一郎 長野大学産業社会学部社会福祉学科/助教授

（職場）386-12 長野県上田市下之郷658-1

（住所）386-13 同・上田市中野639-1-B-111

電話0268 (38) 8989

炭木竹二 いわき明星大学人文学部社会学科

（職場）970 福島市いわき市中央台飯野5-5-1

電話0246 (29) 7214

奥間葉子 德国国立慶北大学校/人文大学日語日文学科
客員教授

（職場）702-701 大邱広域市北区山格洞1370

電話 韓国053 (950) 6156

（住所）FAX 韓国053 (940) 2001

藤 紅燕 高知大学人文学部経済学科

（職場）電話0888 (44) 8228

（住所）157 高知市朝倉甲481-1 高知大学宿舎

学内情報

・群馬県板倉町の板倉ニュータウン建設用地内に板倉キャンパスが1997年4月に開設された。生命科学部と国際地域学部の2学部ほとんど新採用の教授陣での発足。ニュータウン計画の一環として東武線に板倉東洋大学前駅が開業し、快速が浅草、北千住、春日部の次にそこに停車。10月から戸建て住宅の分譲が始まっている。

- ・社会学部長 西山茂 教授
- 社会学科主任 中山伸樹 教授
- 第2部社会学科主任 松本誠一 教授
- 応用社会学科主任 大島尚 教授
- 社会福祉学科主任 佐藤豊道 教授
- マスコミ学専攻主任 三上俊治 教授
- 社会心理学専攻主任 北村英哉 助教授
- 図書館学専攻主任 岩淵泰郎 教授
- 朝霞主任 芳賀正明 教授・戸田慎一 助教授
- ・大学院社会学研究科委員長 広瀬英彦 教授
- 社会学専攻主任 高橋直之 教授
- 社会福祉学専攻主任 窪田暁子 教授
- 福祉社会システム専攻主任 大坪省三 教授
- ・1997年10月18日(土) 雨水会館で東洋大学大学院社会学研究科院生セミナーが開催された。社会学専攻、社会福祉学専攻、福祉社会システム専攻の院生諸氏の発表と、副田義也教授(筑波大学)の講演が行われました。大学院研究科委員長の広瀬英彦先生をはじめ各専攻で指導されている諸先生からコメントと激励の言葉が贈られました。盛会でした。
- ・天野マキ先生が1997年度の国内留学中。
- ・喜多川豊字先生が1997年度の長期海外出張中。ブラジル・サンパウロ市にある日本学術振興会研究センター所長として活躍されている。ブラジル移民研究等の業績が評価されて、先般名誉ある賞を受けられた。
- ・インターネットで東洋大学の情報が公開されています。

●ホームページ・アドレス

東洋大学 <http://www.toyo.ac.jp>
社会学部 <http://www.soc.toyo.ac.jp>

学会雑報

- ・『白山社会学研究』大学生協に販売委託
東洋大学生協に『白山社会学研究』の販売を委託しました。全国の大学生協を通じて、バックナンバーを

購入できるようになりましたので御利用下さい。店頭での注文、受け取り、送料なしの価格で、数日後に受け取れます。

- ・長年にわたり、事務局の主戦力だった旭氏がめでたく長野大学に就職され、事務局のパワーは激減状態です。本ニュースレターも本来は4月に発行を予定していましたが、遅れに遅れました。申し訳ありません。
- ・新刊紹介の欄まで手が回りませんでした。これもインターネットで、日本書籍出版販売の扱う書籍53万冊が <http://www.books.or.jp> で検索できますので、会員名でお調べ下さい。



- ・従来の会報は印刷所に印刷を発注していましたが、フロッピーで原稿を入れるのならと、本紙は原稿を旭、松本が電子メールで交換しながら徐々に作り上げ、正門前の文京堂(長男が結婚されました)で印刷、折り込みをして、森田、佐久間が発送に当たりました。情報化が進んで印刷経費のコストダウンはできましたが、見栄えは劣ります。やむを得ないところです。ところで、事務局長は辞任したいと独り言をぶつぶつ言っております。

